

# 質比率 美術品で指標改善

## 「難点あるが制度上適正」

09.10.13  
神戸新聞

借金返済が財政に占める割合を示す財政健全化法上の指標「実質公債費比率」について、兵庫県が借金返済のために積み立てる県債管理基金に美術品など現金化が難しい保有資産を算入し、指標の改善を図っていたことが13日、分かった。県会の決算特別委員会で、県主幹・県民連合の竹内実明議員が約31億円分の美術品が含まれていることを指摘した。県は「難点はあるが、制度上は適正な処置だ」と答弁した。

県によると、2007年度末時点の県債管理基金の残高は本来あるべき449.8億円に対して186.6億円、不足率は58.5%。これが実質公債費比率の算定に加味され、08年度で0.5%押し上げていた。

竹内議員の指摘では、基金残高には、県立美術館に固定設置されている彫刻や絵画、写真など1037件の約31億円が算入されていた。県は「借金返済のための現金化は難しいが、全くできないことはない。公営企業などに一時的に購入してもらうこともできる」と説明した。

また、県有地についても約91億円分が基金に算入され、うち県土地開発公社が先行取得した「塩漬け土地」約6万8000平方メートルが含まれていた。ことも明らかになった。決算の監査にあたった県監査委員事務局は「法律に、基金の算入には土地や美術品を控除する」という規定はないので誤りはないと判断した」とした。

# 美術品で見せかけ「貯金」

兵庫県が借金返済に必要な「県債管理基金」の設立残高を総務省に報告する際、美術品や県有地の簿価約120億円分も計上し、実態より金額を多く見せかけていたことがわかった。これにより、自治体財政健全化法に基づく実質公債費比率を「改善」していた。総務省地方債課は「問いたことがない」として事実確認を始めた。(渡辺芳枝)

県によると、08年度末の基金残高約1650億円のうち、県所有の美術品1037点の購入価格計約31億円と、県有地の購入価格約91億円を計上。売却のめどが立たない「塩漬け土地」56億円分も含めていた。

兵庫県の08年度の実質公債費比率は19.9%だったが、美術品と土地を基金に含めずに試算すると20.2%に上昇する。25%になると早期健全化団体に転落する。

県は県債管理基金の残高不足などから、06年発表の実質公債費比率が19.6%と都道府県でワースト3となり、他基金から県債管理基金に資金を移し積み増した。この時、他基金の運用先として計上されていた美術品と土地の価格も含まれたという。

13日の県議会決算特別委員会で竹内実明議員(民主)が指摘。総務省の担当者は地方財政法は現金を想定しているとしており、井戸敏三知事は会見で「基金には現金がいない限り、架空の議論をする必要はない」と述べ、問題なごとの認識を示した。

09.10.14 朝日(社)

## 兵庫県、簿価120億円計上で財政「改善」

# 債金 土地・美術品122億円計上

09/10/14  
 県管理基金  
 現現金化困難  
 実質公債費比率は改善の形

県が借金返済のために積み立てる県債管理基金で、現金化が難しい土地約91億円分と美術品約31億円分が含まれていることが13日、わかった。一般財源に占める借金返済額の割合を示す「財政健全化の指標」実質公債費比率は、土地と美術品を計上した分、比率は低く算出されて改善した形になっていた。県は「現金化には難点があるが、制度的に問題はな」と説明している。

この日の県議会決算特別委員会で、竹内英明県議(民主・県民連合)が指摘した。

県によると、2008年度の実質公債費比率は21%で、3年間の平均で18%以上になると、起債に国の許可を必要とする。一方、この数値の算定根拠の一つである2007年度の実質公債費比率は約18660億円のうち、県内11か所の土地計61万と、県立美術館などで所蔵される彫刻や絵画など1037点が含まれていた。

## 県有の美術品や土地など

### 09/10/14 経産省 県債管理基金に算入

県が、借金返済のために積み立てる県債管理基金に美術品など現金化の難しい県有資産を算入していたことが13日、分かった。法律

上、基金の算入に土地や美術品を控除する規定はないが、算入されていたのは19年度末で美術品約31億円、土地約91億円。県債管理基金の残高は本来あるべき4498億円に対して1866億円で、不足率は58.5%となり、これが実質公債費比率の算定に加味され、20年度で6.5%押し上げていた。

県では震災復興に県債管理基金を活用するため、土地や美術品取得基金などを

井戸敏三知事は「多目的で設置した基金を集約した際に受け継いだ結果であり、逆に基金から県が買戻せば(美術品は)高くなる。長い運用法の一つである」と話している。

# 総務省実態把握へ

実質公債費比率 美術品で指標改善

県は「基金運用の1つ」

09.10.14 神戸

残高がどれほど多いかで、自治体財政健全化法上の指標「実質公債費比率」に大きく影響する県債管理基金に、県が現金化が難しい美術品や、いわゆる「塩漬け土地」を算入し、指標の改善を図っていた問題で、井戸敏三知事は13日の定例会見で「基金の運用の1つで、不適正ではない」と説明した。一方、総務省は「こうした事例は聞いたことがなく、(是非について)慎重に判断を示したい」として状況の把握に乗り出した。

県財政課によると、県図したものは「土地有地を管理していた」「土地基金」や、美術品を購入するための「美術品等取得基金」を2006年度に県債管理基金に統合した際、美術品や土地が算入されたという。同課は「結果的なので、意

「県から実情を聞かなければ、軽々にコメントできない」と慎重な姿勢をみせている。

⑤ 県債管理基金と実質公債費比率 県債管理基金は借金返済の期

限に備えて返済資金を計画的に積み立てるが、財政難などで残高が不足すると、借入返済が財政に占める割合を示す実質公債費比率(3年平均)に加算される。実質公債費比率は18%を超えると起債に国などの許可が必要

債に国などの許可が必要面的に積み立てるが、財政難などで残高が不足すると、借入返済が財政に占める割合を示す実質公債費比率(3年平均)に加算される。実質公債費比率は18%を超えると起債に国などの許可が必要

債に国などの許可が必要面的に積み立てるが、財政難などで残高が不足すると、借入返済が財政に占める割合を示す実質公債費比率(3年平均)に加算される。実質公債費比率は18%を超えると起債に国などの許可が必要

兵庫県債管理基金 美術品などを算入 10/14(水) 財政改善図る

自治体の借金の負担割合を示す財政指標「実質公債費比率」の算定を巡り兵庫県は、算定基準となる「県債管理基金」に美術品や土地などの現金化が難しい資産を算入し、比率の改善を図っていたことがわかった。13日の県議会で県が明らかにした。県は「制度上の問題ない」としている。

県債管理基金は借金返済に充てるため自治体が積み立てるもの。所定の積み立て額に対する不足分が「借金」として実質公債費比率の算定に加味される。07年度末段階で同基金として約4500億円が必要だが、1700億円余りしかないため、美術品1037点(約31億円相当)や土地約61万平方メートル(約91億円相当)を加えていた。この結果、08年度の実質公債費比率は19.9%で北海道に次いで都道府県ではワースト2だった。実質公債費比率は、25%を超えると早期健全化団体となる。

【近藤諭】